

令和八年度一般選抜独自方式Ⅱ期問題

国語

出題意図および解答例

一

【出題意図】

問題文は、江戸時代の蘭学者である杉田玄白と前野良沢らの交流や医学への探求を描いたものである。問題文を正確に読み取り、各設問に対し明確に解答することができる思考力・判断力を有するかを問う。

【解答例】

問一 a 緊張 b しきゅう c 容易 d 潜んで e しゅうしん

問二 エ

問三 (傍線部①) イ (傍線部③) ア

問四 ウ

問五 イ

問六 ア

問七 (ア) × (イ) ○ (ウ) × (エ) ○

二

【出題意図】

問題文は、ターミナルケアのあり方について述べたものである。問題文の構成・論理を正確かつ柔軟に捉え、各設問に対し明確に解答することができる思考力・判断力を有するかを問う。

【解答例】

問一 a 瞬間 b 施設 c 極力 d 訴えた e 避難

問二 ウ

問三 イ

問四 ウ

問五 ウ

問六 ア

問七 エ

①

令和八年度 入学試験問題（Ⅱ期）

国語

受験番号

氏名

時間 六十分

配点 一〇〇点

著作権の関係で掲載できません。

②

国

語(Ⅱ期)

受験番号

氏
名

③	国語(Ⅱ期)	受験番号						氏名	
---	--------	------	--	--	--	--	--	----	--

(菊池寛「蘭学事始」より。『菊池寛 短編と戯曲』文芸春秋、一九八八年、二七八～二八四頁収録。出題の都合上、文章の一部を改変した)

問一 二重傍線部 a～e の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

a		b		c		d	んで	e	
---	--	---	--	---	--	---	----	---	--

問二 空欄 A に入る最も適当な言葉を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 一心不乱 イ 一念発起 ウ 一朝一夕 エ 一日千秋

問三 傍線部①、傍線部③の意味として適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

傍線部① 「諸説」

- ア 広く知られている説
イ 色々な説
ウ 権威とされている説
エ 古い時代に提唱された説

傍線部③ 「失念」

- ア うっかり忘れること
イ 配慮に欠けること
ウ 礼儀を尽くさないこと
エ 大切な物事を見失うこと

④	国語(Ⅱ期)	受験番号						氏名	
---	--------	------	--	--	--	--	--	----	--

問四 傍線部②「そういったとき、玄白は自分自身、救われたような明るい気持ちになった」とありますが、それはなぜでしょうか。最も適当な説明を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 仲間たちが賛同したことで、自身の判断が誤りではなかったと実感したため。

イ 良沢への配慮を見せることで、自身の優れた人格を仲間に出せたため。

ウ 良沢の存在に気づいていながら、そのことに言及せずにいた自身の心の卑しさを正せたため。

エ 自身が良沢を腑分に呼ぶことで、良沢に対する優位性を獲得できたため。

問五 傍線部④「やっぱり良沢を呼んで、いいことをしたと思った」と玄白が考えたのは、なぜでしょうか。最も適当な説明を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 良沢を呼ぶことで、蘭学仲間としての連帯感を再確認できたため。

イ 良沢の前で、自身の持つ珍書を誇示する機会が得られるため。

ウ 良沢の存在は、腑分や蘭学への理解を深める上で不可欠であるため。

エ 良沢の人格には反感を持ちつつ、その知性に対しては敬意を抱いていたため。

問六 傍線部⑤「それは、自分が懷中しているターヘルアナトミアと、寸分たがわぬ同版同刻の書であった」とあります。この時の玄白の心情として、最も適当な説明を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 書物を披露する際の誇らしさも、良沢への優越感も失うことになり、衝撃を受けた。

イ 良沢への反感や競争心を刺激され、学問だけではなく、物質的な面でも良沢への対抗心を強くした。

ウ 貴重なものと思われた書物を身近な人物が所有していたことで、書物の希少性が損なわれたように思い、落胆した。

エ 細部までが同じ書物を二冊確認できたことで、書物が偽物などではなく、信頼のできる価値のあるものだ と確信した。

問七 次の説明文を読み、本文の内容と合致するものには○、合致しないものには×で答えなさい。

ア 玄白たちは、書状で腑分の報せを知ると、年来の宿願がようやく叶うことを喜び、その日の夜にただちに出発した。

イ 仲間の中には、遠い場所に住む良沢に、翌日腑分けが行われると知らせることをためらう者もいた。

ウ 骨ヶ原に向かう道中、玄白や仲間らは腑分への恐怖や葛藤を紛らわせるために、口数が増え、興奮した態度を見せた。

エ 玄白は良沢に対して反感や劣等感を抱いていたが、良沢の学問への真摯な情熱に心を打たれた。

ア		イ		ウ		エ	
---	--	---	--	---	--	---	--

⑤	国語(Ⅱ期)	受験番号								氏名	
---	--------	------	--	--	--	--	--	--	--	----	--

二 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

著作権の関係で掲載できません。

(鷲田清一『「聴く」ことのか——臨床哲学試論』より。CEメディアハウス、一九九九年、一九一―一九四頁収録。出題の都合上、文章の一部を改変した)

問一 二重傍線部a～eの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

a		b		c		d	えた	e	
---	--	---	--	---	--	---	----	---	--

問二 傍線部①「普遍的」の意味として適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 誰もが納得できること
イ 因果関係や根拠が明確で、理解しやすいこと
ウ 時代や文化、地域に関わらず当てはまること
エ 憶測ではなく、経験に基づく事実の観察によって論じられること

⑥	国語(Ⅱ期)	受験番号						氏名	
---	--------	------	--	--	--	--	--	----	--

問三 空欄Aに入る最も適当な言葉を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 孤立無援 イ 千差万別 ウ 明鏡止水 エ 朝令暮改

問四 傍線部②「ターミナルケアの本質」の説明として、最も適切なものを選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 患者が自らの意志で、自らの最期の時間の過ごし方を決定できるようにすること。
 イ 患者のそれまでの生き方を尊重し、患者の価値観に見合った最期を迎えられること。
 ウ 患者が「誰と」ともにあるかが重視され、最期の時間が孤独ではないこと。
 エ 患者が他者との心の繋がりを通して、生の実感を得ること。

問五 傍線部③「意味の外部で他者に触れるということ」とはどのようなことか、最も適切な説明を選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 他者との関わりに、目的や意味を見出すこと。
 イ 他者との関わりを通じて、自分の行動に意味を付与すること。
 ウ 他者との関わりそのものが、特定の目的や意味を持たないまま価値をもつこと。
 エ 他者との関わりにおける意味を、他者の判断に委ねること。

問六 空欄Bに入る文として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア なにかをしてあげないとプラスにならないのではない。
 イ 時間とともに過ごすことが、ケアの第一歩であり、ひとを生へと繋ぎとめる力となる。
 ウ 言い換えれば、どれだけ相手のために力を尽くそうとも、そばにいらなければケアとはいえないのである。
 エ 相手のために時間をさくということは、簡単なようで案外むずかしい。

問七 傍線部④「母親から離れてひとり集団のなかへ入ってゆくときの不安は、だれもが経験したことのあるものだ」とありますが、ここで述べられている筆者の考えとして、最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 幼児が他者の輪の中に入っていくためには、母のまなざしから離れるという経験が不可欠である。
 イ 幼児は母のまなざしからその意向を推し量ることで、集団生活の中に入っていくことができる。
 ウ 幼児の自立や成長は、母のまなざしが届かない場所で集団生活を送ることで、初めて果たし得るものである。
 エ 幼児は母のまなざしがそばにあると感じることで支えを得て、不安を抱えながらも他者の輪の中へと踏み出すことができる。